

総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会〔公開議題〕

議事概要

- 日 時 令和7年1月30日（木）10：00～10：17
- 場 所 中央合同庁舎第8号館6階623会議室
- 出席者 上山議員、梶原議員、佐藤議員、篠原議員、菅議員（Web）、波多野議員（事務局）
森総理補佐官（Web）、徳増審議官、川上審議官、藤吉審議官、
彦谷審議官（Web）、塩崎事務局長補（Web）、岩渕参事官、
原府審（Web）
松本外務大臣科学技術顧問、大野経産大臣科学技術顧問、
小安文科大臣科学技術顧問
（文部科学省）
坂本サイバーセキュリティ・政策立案総括審議官（Web）、
平野産業連携・地域振興課室長
（日本学術振興会）
高見沢調査役
- 議題 （1）地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J－PEAKS）の令和6年度採択結果について

○ 議事概要

午前10時00分 開会

○岩渕参事官 それでは、お時間となりましたので、始めさせていただきたいと思います。

本日の木曜会合につきましては、オンラインで菅議員が御出席と承っております。では、まず公開議題でございますが、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J－PEAKS）の令和6年度採択結果」について、文科省より説明がございます。

議事進行、上山議員よりお願いいたします。

○上山議員 では、公開議題、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業、いわゆるJ－PEAKSの令和6年度の採択結果について行います。

本日は、文部科学省より産業連携・地域振興課の平野室長、日本学術振興会より高見沢調査

役に御参加を頂いております。

では、まず文科省の平野室長より、本議題の内容について御説明をお願いいたします。

○平野室長 文部科学省の産業連携・地域振興課の平野と申します。説明をさせていただきます。本日、公開議題のため、J－P E A K Sのあらましについても説明させていただいた上で、採択の内容について簡単に御説明申し上げたいと思います。資料の1ページ目でございます。

こちらについては、多様で厚みのある研究大学群の形成に向けた支援の在り方を整理した資料でございます。この上の日本全体の研究力の発展を牽引する研究システムについて国際卓越研究大学（当面数校程度）と、右側の方に地域の中核・特色ある研究大学の支援ということですが、右側の部分の中核を占める施策がJ－P E A K Sと、こういう位置づけでございます。先々は国際卓越研究大学などと特定分野における人材流動・共同研究等の促進を通じ、共に発展できる関係を構築していくことを目指していくものでございます。

2ページ目がJ－P E A K Sの概要でございます。こちらについては、こちらにいらっしゃる先生方につきましてはよく御存じのことと存じますが、事業概要は左下でございます。基金により5年間継続的に支援をする。支援件数は25件と。今回13件採択をいたしましたので、昨年の12件と合わせて25件ということでございます。支援の内容としては、5年間基金により継続的に支援し、最大55億円程度を、Aとして戦略的実行経費が年間5億円程度、Bが研究設備等の整備経費として最大30億円程度ということでございます。

右側に、簡単に資金のスキームを書いてございます。日本学術振興会の方で基金を造成し、また、審査等を行っていただきました。文部科学省と日本学術振興会ともに、採択された大学については伴走支援というものを今後しっかり行ってまいりまして、この25大学が日本の研究力発展を牽引する研究大学群として進んでいくということを支援していくこととしているものでございます。

3ページ目以降が今年度の採択の結果でございます。ちなみに、6ページ、7ページに、去年採択した大学も記載しております。3ページから、北から順に、弘前、山形、新潟、長岡技術、山梨と、次のページでは、奈良先端、徳島、九工大、長崎、熊本、国立大学が10校、今年度選定をされております。続いて、5ページでございます。公立大学の横浜市立大学、私立の大学として藤田医科大学と立命館大学でございます。連携大学についてもここは併せて記載され、また、参画機関についても記載をされているところでございます。

6ページと7ページの昨年度採択された大学と併せて御覧いただきますと、地理的なことで申し上げますと、北海道から東北、そして、中部から信越、また、中国、四国、九州と、結果

として、このような形でバランスは取れた採択になっているかと思います。

審査の詳細については公開しないということで、御説明できる範囲が限られている部分もありますが、委員の方々におかれましては大変な作業をお願いする中、内容について、J－P E A K Sの目的というものの、研究大学群を形成するということの目的というものに照らして、採択先を決定していただいたというように考えたところでございます。

一旦、私からの説明は以上とさせていただきます。ありがとうございます。

○上山議員 ありがとうございます。

それでは、議員の皆様方からのコメント、御質問あれば、是非頂きたいと思います。

○篠原議員 ありがとうございます。採択に関わった方々、本当にお疲れさまでした。

昨年も伺ったんですが、もともとの地域中核・特色ある研究大学ってことを考えたときに、「羅針盤」という表現がございました。みんなが同じような格好の大学を目指すのではなく、多様性ということも大事だと思うんですが、そのような観点で二つ質問です。一つは、今回選ばれた大学の、その羅針盤で見たときの特徴について、例えば、特色ある研究を伸ばそうと思った大学がどのぐらいで、地域貢献や地域の創生に力を入れている大学はどのぐらいかという、その辺のバランスを教えてくださいたいのが1点。あとは、選定の際に、その辺のバランスを意識して選定されたのか、それとも、バランスを意識せずに単に良いところから選んでいったのか、お聞かせいただけますか。

○平野室長 ありがとうございます。まず、一つ目の御質問についてでございます。今回採択された大学、13大学あるわけですが、②番のみを選択した大学が1大学。②番というのは、グローバルな社会実装についてです。③番、地域という観点だけを選択した大学が1大学。①の国際的に卓越したものと社会実装を選択された大学が5大学。②と③という、社会実装・地域という観点で手を挙げられたのが1大学。残りの5大学が全ての機能を選択しているという形でございます。

この選定という部分、先ほど申し上げたとおり、個々の研究力向上の戦略・計画というものについてしっかりと確認をした上で、J－P E A K Sの目的、つまりは研究大学群というものを我が国において形成していく、また、先生が先ほどおっしゃったような、多様な大学を育てていくという観点も含めて、委員の先生に十分認識を頂きながら選定をしていただいた。ただ、直接①番、②番、③番というものの枠とか、こういったものを決めたということはないわけがあります。

ただ、今回の大学のタイプというものを見ていただきますと、いわゆる総合大学というもの

に限らず、単科の大学でありますとか、また、非常に単科の大学であっても新しい構想に基づいて作られたような大学ですとか、高専との連携を特徴としている大学であるとか、かなり多様なパターンというのが含まれているということについては、見て取れる部分もあるのではないかと私個人としても思っているところでございます。以上でございます。

○篠原議員　ありがとうございました。

私も実は自分の仕事の中で研究開発を見ているときに、分野が違っていると評価尺度が違っていると思います。そのため、例えば先ほどおっしゃった2番みたいなものと3番みたいなものが出てきたときに、どっちが優れているかというのは、片方はセンチで測って、片方はグラムで測るようなものなんで、その辺がやはりなかなか難しいのですが、言葉を返せば、例えば、3番を目指すような大学はこういうところをもっと磨いていかなきゃいけないんだよとか、1番目指すところはこういうところをもっと磨いていかなきゃいけないんだということのメッセージにもなると思います。

ですから、これから進んでいく中で、途中でいろいろ進捗状況を確認したりすることがあると思いますが、それぞれの特性に合わせたところをもっと伸ばしていくというようなメッセージは、この大学だけではなくて大学全体に対するメッセージになると思うので、是非御留意いただければと思っています。

○平野室長　ありがとうございます。

先生おっしゃったとおり、これは本当、一様な大学を支援していくという仕組みではなくて、個々の大学の個性、大学システム全体の多様化というものに非常に貢献していく仕組みである。だから、国公私のかんじけりというものも超えてでございますが、そのような観点から今後の伴走支援をやる上でも、丸くて大きい大学を作っていくのではなく、しっかり特徴というものを伸ばして、世界で、また地域で、存在感のある大学というものを作れるような形で伴走支援してまいりたいと思います。ありがとうございます。

○上山議員　佐藤議員、どうぞ。

○佐藤議員　本当に御苦労さまでした。地域中核と国際卓越の、この二つの両輪という非常にアグレッシブな政策をここまでやってこられたということで、心から敬意を表したいと思えます。

残された問題として幾つかあると思いますが、一つは、伴走支援の在り方です。もう一つは、国際卓越との関係、車の両輪という事をどのように実践していくのかということです。国際卓越の方はまだこれから選定される大学もありますが、地域中核との連携のあり方を議論するこ

とも引き続きの課題だと思います。

それからもう一つは、全部で140近い大学が2年間でアプライしてきて採択校が25という数字ですので、惜しくも採択されなかった大学の意欲を見捨てない為にはどうするのか、という事は考えていく必要があるのではないかと思います。

それから三つ目に、岡山大学のように、J－PEAKSに選ばれたことで、自分たちはこうなっていくんだとか、こうなっているんだとか、学長の性格にもよるのかもしれませんが、各採択大学が自ら発信していくことがとても大事ではないかと思いますので、是非文科省の方からも、岡山大学の様な発信を行って欲しいという事を採択大学には言っていただきたいと思います。○平野室長 少し、佐藤先生から頂いたことに。

ありがとうございます。まず、連携促進という観点でございます。これについては、もちろん各大学の方で自発的にそういう動きが出てくるんだと思いますが、この伴走支援の中でも連携というものを化学反応として促していくような、そういったようなやり方。例えば、それは大学同士のキーパーソン同士の交流かもしれませんし、自分の大学の強みと、また、どういうところを補いたいかということを経験するという事かもしれませんし、様々な方法で促していくと。我々もそういう触媒となれるように努力をしてみたいと思います。

二つ目の点については、これは採択に当たって非常に御苦労いただいた点でもございます。今回の総評の方でも触れていただいたように、今回磨き上げた構想というものについては、これは今後の各大学の礎になるものというように考えております。一方で、大学をどのような形で支援するかということについては、今後の第7期の議論であり、また、総合振興パッケージ全体での施策というものを、こういったものも横に見ながら、これはむしろ我々だけというよりは文科省全体、また内閣府も含めて考えてまいりたいと思います。

最後に、岡山大学は、非常に、プレスリリースも含め、また学内への情報発信も含めて、優れた情報展開をされているというように思っております。正に今日、この会議が始まる前にそのような話をしていたところでありまして、こういう取組も、J－PEAKSは単に一部の拠点だけが変われば良いということじゃなくて、全学展開の事業でありますので、非常に重要なことであるということを経験を、各大学に文科省の方からも直接伝えてまいりたいと思います。ありがとうございます。

○上山議員 ありがとうございます。では、波多野議員。

○波多野議員 ありがとうございます。私も審査に関わらせていただきまして、大変充実した、そして多岐にわたる、そして多様な視点から審査されていまして。ですので、いい大学が選ば

れたなと思っています。ただ、連携大学合わせれば、連携大学が１５校ありますので、その選ばれたところ、連携大学がアメーバのようにどんどん繋がっていけばというように思いますし、６５校に関しましても、このような地域特色のあるところに投資されれば、これだけ経済効果もあり、あと、日本全体が再生されるんだということを示していけるんじゃないかなというように期待していますので、引き続き、この政策につきましては、何らかの形の投資が必要かなというように感じています。以上です。

○上山議員　ありがとうございます。もう１年もしないうちに卓越大学がほぼ固まりますし、Ｊ－ＰＥＡＫＳがこのような形で出てきましたので、新しい取り組みを行う大学の大きな固まりができることとなります。恐らく、佐藤議員が座長をされているＰＥＡＫＳにおいても、これらの大学の間での種のコミュニケーションが発生すると、そういう立て付けになっていくんじゃないかなというように思っていますし、名前もＪ－ＰＥＡＫＳになっていますから、同様の思いが反映されているのかもしれないな、と思って聞いておりました。

私も関わる中で大変な思いをしましたが、うまくいったということで喜んでおります。ありがとうございます。では本議題は以上となります。

午前１０時１７分　閉会